

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-147584

(13)公開日 平成11年(1999)6月2日

(51)Int.Cl.\*

B 6 5 D 85/57  
55/14  
G 0 8 B 13/14

識別記号

F I

B 6 5 D 85/57  
55/14  
G 0 8 B 13/14

C  
Z

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全4頁)

(21)出願番号

特願平9-311826

(22)出願日

平成9年(1997)11月13日

(71)出願人 391013047

株式会社ハゴロモ

東京都千代田区神田須田町2-6-5 O  
S' 85ビル

(72)発明者 橋 倍男

東京都千代田区神田須田町2-6-5 株  
式会社ハゴロモ内

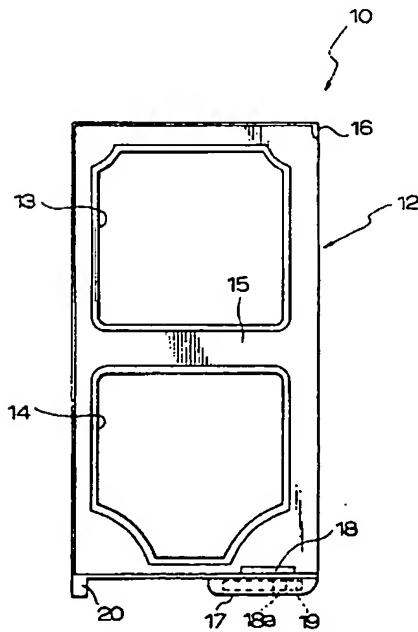
(74)代理人 弁理士 佐々木 功 (外1名)

(54)【発明の名称】 シングルCDの陳列兼用防犯容器

(57)【要約】

【課題】 シングルCDを確実に保持すると共にそのままバーコードリーダーで読み取る事ができるシングルCDの陳列兼用防犯容器を提供することにある。

【解決手段】 平行移動させてCDケースを出し入れ可能な開口部を側面に有した容器本体と、該開口部の上端部から垂下された係止片と、該容器本体の下端内側に突出、後退可能な係止部材を有したロック機構と、該ロック機構の下端部と同一高さの脚部とを備えたので、強度的に弱いシングルCDを確実に保持すると共にそのままバーコードリーダーで読み取る事ができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 CDケースを平行移動させて出し入れできる開口部を側面に有した容器本体と、該開口部の上端部から垂下された係止片と、前記容器本体の下端部に設けられ、容器本体の内側に出没可能な係止部材を有したロック機構と、該ロック機構の下端部と略同一高さの脚部とを備えたことを特徴とするシングルCDの陳列兼用防犯容器。

【請求項2】 前記容器本体は、透明部材から構成されたことを特徴とする請求項1記載のシングルCDの陳列兼用防犯容器。

【請求項3】 前記容器本体の上端部は、平坦で透明に形成されたことを特徴とする請求項1記載のシングルCDの陳列兼用防犯容器。

【請求項4】 前記容器本体の少なくとも中間付近に所定巾の補強部を横方向に設けたことを特徴とする請求項1記載のシングルCDの陳列兼用防犯容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、内部にシングルサイズのCDケースを収納して陳列できるようになると共に、該CDケースを取り出せないようにロック機構によって施錠する事のできる防犯用タグを装備したシングルCDの陳列兼用防犯容器に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、店頭に陳列してあるCD、ビデオテープ等の商品を不正に持ち出されないように、商品に磁気的或いは電気的に反応する防犯タグを取り付けていた。しかし、商品に直接取り付けると、防犯タグを引き剥がされたり、切り取られる事があった。そこで、これを防止するために、防犯タグとCD等をケース自体と共に施錠できる容器にいれ、販売する際に施錠を解除して製品(CD)とケースのみを防犯容器から取り出してお客様に引き渡していた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、8cm径のシングルCDでは、ケース本体は合成樹脂製であるか蓋は紙から成る簡単な構造のものである。このため、背面に大きな開口窓を有したフルサイズの防犯容器では、CDケースの強度が弱く確実な収納が困難であった。特に、シングルCD用のケースは、合成樹脂部分が中央で折り曲げ事ができるような構造になっている為に、防犯容器に入れたままCDケースの中央を折れば、ロックしてあっても容易に取り出す事ができると云う欠点が存在した。

【0004】 また、CD販売店やレンタル店では、店頭に陳列した場合にCDのジャケットが防犯容器の外側から視認できる事が望ましい。更に、従来の防犯容器では、在庫管理等の際に商品のバーコードを防犯容器の外部からバーコードリーダーで読み取れない為に、その都

度CDケースを防犯容器から取り出してから読み取っていた。

【0005】 本発明の目的は、これら従来のシングルCDの陳列兼用防犯容器の問題点に鑑み、強度的に弱いシングルCDのケースを確実に保持できると共に、防犯容器に入れたまま店頭に陳列してもCDジャケットが顧客に見え、防犯容器に収納したままバーコードリーダーで読み取事ができるシングルCDの陳列兼用防犯容器を提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、本発明のシングルCDの陳列兼用防犯容器は、CDケースを平行移動させて出し入れできる開口部を側面に有した容器本体と、該開口部の上端部から垂下された係止片と、前記容器本体の下端部に設けられ、容器本体の内側に出没可能な係止部材を有したロック機構と、該ロック機構の下端部と略同一高さの脚部とを備えたことを特徴とするものである。

【0007】 前記容器本体は、透明部材から構成されたことを特徴とするものである。また、前記容器本体の上端部は、平坦で透明に形成されたことを特徴とするものである。また、前記容器本体の少なくとも中間付近に所定巾の補強部を横方向に設けたことを特徴とするものである。

【0008】 本発明に係るシングルCDの陳列兼用防犯容器では、簡易な包装ケースから成るシングルCDを確実に収納すると共に、シングルCDの上面タイトルを外部から読み取れる状態で陳列する事が出来る。

## 【0009】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施例について、図面を参照しつつ説明する。図1は本発明のシングルCDの陳列兼用防犯容器の一実施例を示す正面図、図2は同シングルCDの陳列兼用防犯容器の一実施例を示す背面図、図3は同シングルCDの陳列兼用防犯容器の全体斜視図である。

【0010】 図に示すように、シングルCDの陳列兼用防犯容器の容器本体10は、CDケース11が出し入れ可能な開口部12を側面に有している。また、容器本体10の正面には、開口した開口窓13、14が形成されている。開口窓13と開口窓14の間には、帯状の補強部15が形成されており、シングルCDケースの略中央に位置している。開口窓13、14の隅部は、丸く形成されており、隅部に応力集中が生じないように構成されている。更に、開口窓の周端は、斜めに面取り13aがされている。シングルCDケースの中央には、通常、折り曲げ用の溝が形成されている。更に、容器本体10は、透明或いは半透明の合成樹脂から構成されており、適度な剛性と、弾性を有している。

【0011】 また、容器本体10の開口部12の上端部から係止片16が垂下されている。係止片16は、開口

部12の上端部を一部塞ぐように形成されている。したがって、容器本体10内に収納されたCDケースがロック機構で押し上げられると、この係止片16で邪魔されて取り出す事ができない。

【0012】容器本体10の下端には、ロック機構17が配設されており、係止部材18が容器本体10の内側に突出、後退可能に形成されている。ロック機構17は、容器本体10の下端で開口部12側寄りに取り付けられており、板バネ19とこの板バネ19により容器本体の内側部へ突出状態を保持される係止部材18とから構成されている。

【0013】そして、板バネ19は、係止部材18の両端を挟んでいる。ロック機構本体の内部には、図外の溝が形成されており、この溝に板バネ19の一部が嵌合されている。更に、係止部材18には、係台段部が形成されており、押し込んだ際に板バネ19が両側の係台段部と係合して押し込んだ状態を保持する。また、鉗部18aは、ロック機構17の下端から突出可能に配設されており、操作者はこの部分を指で押す事により施錠する。

【0014】容器本体10は、透明或いは半透明の部材から構成されているので、収納したCDケース11のジャケット等を外部から視認する事ができる。また、開口窓15からは、直接ジャケット等を確認する事ができ、店頭に陳列しても、消費者にCDの内容を確認する邪魔になる事がない。特に、容器本体の上端部は、平坦で透明に形成されたので、立てた状態で並べても、上端のCDタイトルを視認する事が出来る。

【0015】容器本体10の側面に形成された開口部12は、略長方形をしている。したがって、縦長のシングルサイズのCDケース11は、非施錠時には、容器本体10と平行な状態でそのまま、側端方向に取り出す事ができる。

【0016】容器本体10の下端には、ロック機構17と下端までの長さが等しい鉗部20が形成されている。このため、容器本体10は、こちらを下にして立てて並べる事ができる。また、シングルCDの陳列兼用防犯容器の背面には、図2に示すように小さな開口窓21が形成されている。この開口窓21は、CDケース11の出し入れの際に指でCDケースを支える場合に便利である。また、開口窓21の隣部も丸く形成されている。更に、周端面は、斜めに面取り21aが施されている。

【0017】次に、以上のように構成されたシングルCDの陳列兼用防犯容器の使用方法について説明する。先ず、防犯容器内に収納する場合は、CDケース11を施錠されていない容器本体10の開口部12から挿入する。そして、施錠する場合には、ロック機構17の鉗部18aを押し込む。すると、係止部材18の上端が容器本体10内に突出してCDケース11押し上げる。押し上げられたCDケース11は、係止片16と係合して開口部12から取り出す事ができない。また、施錠状態で

は、鉗部20とロック機構17の底部が等しい長さにあるので、この面を下にして立てる事ができる。

【0018】ロック機構17の施錠は、ロック機構の底部から下に突出した鉗部18aを指で押し込むことにより行う。鉗部18aが押し込まれると、係止部材18の両側に配設された板バネ19は、両側の係台段部に係合し、係止部材18を上昇した状態で維持する。

【0019】また、解錠する場合には、ロック機構17の両側面に強力な磁石を有した解錠具に当て、板バネ19を夫ヶ外側方向へ引き寄せせる。解錠具は、ロック機構17をそのまま収納できる凹部を有しており、凹部の両端に強力な磁石を有している。板バネ19の両先端が両側に引き寄せられると、係止部材18は係台段部との係合が解除され下降する事ができる。係止部材18が下降すると、開口部12からCDケース11を水平に移動して取り出す事ができる。

【0020】尚、本発明は以上の実施例に限る事なく、本発明の技術思想に基づいて種々の変形が可能である。

#### 【0021】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のシングルCDの陳列兼用防犯容器では、CDケースを平行移動させて出し入れできる開口部を側面に有した容器本体と、該開口部の上端部から垂下された係止片と、前記容器本体の下端部に設けられ、容器本体の内側に出没可能な係止部材を有したロック機構と、該ロック機構の下端部と略同一高さの脚部とを備えたので、強度的に弱いシングルCDのケースであっても確実に収納保持する事ができる。

【0022】また、脚部とロック機構とが同一高さに形成されたので、この脚部とロック機構を下端にして防犯容器を立てて陳列する事が出来る。したがって、店頭の陳列棚にレコードの様に立てて重ねて並べても、CD容器の上端部に印刷されたタイトルを確認する事が出来る。

【0023】また、前記容器本体は、透明部材から構成されたので、シングルCDの陳列兼用防犯容器に入れたままCDのバーコードを機械で読み取る事ができ、在庫管理等を効率的に行う事ができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のシングルCDの陳列兼用防犯容器の実施例を示す正面図である。

【図2】同シングルCDの陳列兼用防犯容器の一実施例を示す背面図である。

【図3】同シングルCDの陳列兼用防犯容器の全体斜視図である。

#### 【符号の説明】

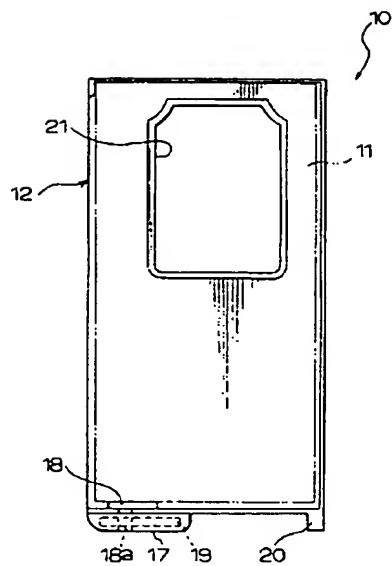
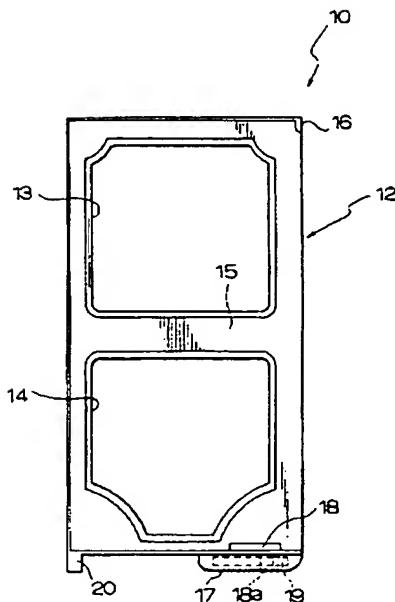
10	容器本体
11	CDケース
12	開口部
13, 14	開口窓

15	補強部	* 19
16	係止片	20
17	ロック機構	21
18	係止部材	*

板バネ  
脚部  
開口窓

\* 19  
20  
21

〔図1〕



〔図2〕

〔図3〕

